

(様式1)

平成30年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 明るく健康で、礼儀正しい生徒の育成 2 自分で目標を定め、それに向かって専心努力する生徒の育成 3 新しい時代を主体的に切り拓く、心豊かで、逞しい生徒の育成
------------	--

(2) 現状と課題	本校生徒は基礎学力が定着していない生徒が多いことから学習意欲も高くはなく、高校生活の目的意識や進路意識も薄い。したがって、普通科における特色ある教育活動の推進と進学指導体制の整備が課題である。また、食物調理科においても取得資格を活かした進路選択ができるよう、キャリア教育の充実を図ることが課題である。
-----------	--

(3) 重点目標	1 魅力ある教育活動の推進(魅力ある百石高校の創造)
	2 授業の充実(授業第一主義「分かって、できて、おもしろい授業」)
	3 生徒指導の充実(秩序と活気のある学校生活、安心して学べる環境づくり)
	4 キャリア教育・進路指導の充実(生徒全員の進路志望の実現)

(4) 結果の公表	本報告書を学校ホームページに掲載するとともに、次年度のPTA総会で保護者に公表する。
-----------	--

学校整理番号	28
学 校 名	百石高等学校
全日制課程	校舎 ・ 分校

自己評価実施日	平成 31 年 1 月 25 日(金)
学校関係者評価実施日	平成 31 年 2 月 20 日(水)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
保護者 1 名、学校評議員 3 名 計 4 名

自 己 評 価				学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	
1	①学科の特色作りを促進するため、教育課程の編成に創意工夫する。 ②食調科と地域との連携を図るとともに食に関する知識・技術の向上を図る ③学校のアピールポイントを、積極的に情報発信	①各学科の特色を生かした教育課程を編成する。 ②食育教室、高校生レストラン運営、地域行事への参加。 ③学校HP、報道等へ情報発信する。	①平成31年度教育課程については新学習指導要領を踏まえて編成できた。 ②小学1校、中学2校実施。年8回運営中、生徒会館で2回試行。 ③HPの更新や新聞・テレビ・雑誌・町広報等へ学校情報が多数掲載される。	A	・高校生レストランの反響は良好である。先進校を参考に、運営回数を増やすとかお土産を作るとか利益をあげる工夫も必要なのは。 ・配布物・学校HPだけでは保護者に伝わりにくい。ライン等SNSの利用も考えて欲しい。
2	①基礎学力の向上 ②アクティブラーニング型学習の推進 ③探究型学習の充実	①生徒の学力差に対応するため教科・学年と連携し、少人数指導やチームティーチングなどの授業を行う。 ②協働的な授業でのICT機器の活用を促し、機器を適切に管理する。 ③地域における実態調査・報告や地域課題等をテーマにした学習活動の実践	①8科目でチームティーチング、習熟度またはグループによる少人数授業を実施した。 ②殆どの教員がAL型授業を実施。プロジェクター・タブレットの授業での利用が増えた。 ③総合学習の時間を利用し地域課題等の学習活動を実践し、町長とのフレッシュトークを行いまちづくりへの関心を高めた。	A	・生徒の能力差に応じた、きめ細やかな教育を今後も続けて欲しい。高校時代はあまり関心が無くても、社会で様々な経験をすることが将来やる気に繋がることがある。 ・各教科で生徒の能力差に対応するようにICT機器を利用した授業等工夫してより学習効果を高めていく。 ・学習への意欲が高くない生徒に対し、希望進路の実現と結び付けて指導する。
3	①規範意識の醸成と基本的生活習慣の定着。 ②進路目標達成に向け自己指導能力の育成。 ③生徒会活動・学校行事・部活動を通して、心身の発達。 ④家庭、地域と連携を図り、生徒個々の健全な育成。	①登校指導、校外指導を実施し、毅然とした態度での指導を心掛け、温度差のない指導を行う。 ②集団指導を通して話を聞く態度を育成する。生徒の観察等により、事故非行いじめの未然防止を目指す。 ③生徒の自主性と人権・人格を尊重し、自らを律し、他人と協調し、思いやる心・感動する心の育成を図る。 ④家庭、中学校及び地域関係機関と連携強化し、生活指導の充実を図る。	①2学期より登校指導を毎日行う。分掌・学年の協力が不十分な場面もあったが、容儀は改善している。 ②集会に望む姿勢は良くなっているが、個々の接し方において不十分な者も見受けられる。 ③生徒会が核となり活発に活動し、他生徒が協力していた。部活動においては各部とも活発に活動した。 ④問題行動による停学指導は4件と増加した。特にSNSに関する問題や無届アルバイトが増加した。生徒・保護者へのいじめアンケートを実施した。	B	・無断アルバイトは関係機関に協力を得て防ぐようにしてはどうか。 ・スマホ(SNS)の利用法については合格者説明会の時だけでなく、入学後も機会をみて何度も指導が必要であると感じる。 ・特定の生徒による遅刻・女生徒の服装の整備不足等の問題点が見受けられた。各学年ともっと連携を図りながら改善・解決していく必要がある。 ・問題行動やいじめに関して未然防止を図るため呼びかけ等を積極的に行い、各学年や各家庭と連携を図る必要がある。SNSの問題については引き続きの指導が必要である。
4	①3年間を見通した進路計画の充実を図る。 ②キャリア教育に根ざした進路指導の実現を図る。 ③保護者の意識向上を図り、生徒が進路目標を設定できるような情報提供に努める。	①学年との連携を図り、進路に関わる研修会や学校説明会への参加を促す。 ②勤労観・職業観を育成、上級学校進学に必要な能力の育成、おいらせ町の経済的支援の有効活用。 ③進路ガイダンスの実施、各種進路に関する説明会への参加を促す。	①進路年間計画を作成し、進路会議・打合せ等を行うことで共通認識を図った。 ②「企業見学」「インターンシップ」「大学等見学会」の実施、町の経済的支援を利用し、教科主導で各種検定・講習会を実施した。 ③生徒と保護者を対象に「進路ガイダンス」を実施。「3年地元企業求人説明会」や「1学年地元企業研究会」を実施。ハローワーク職員が来校し、生徒・保護者と相談。	A	・就職後の定着率及び離職理由を調べることにより、離職を防ぐ手立てができるのではないかと。 ・町の補助を得ての資格取得は生徒のやる気にもつながっているため今後も増加させて欲しい。社会で必要とされるコミュニケーション能力アップのための研修を受講させてはどうか。 ・「進路ハンドブック」の内容を精選する。「進路だより」の発行回数を増やす。 ・「企業見学」や「インターンシップ」の事前・事後学習を充実させる。 ・ハローワーク職員が来校し、専門家としての助言を頂いた。来年度も利用生徒や保護者を増やし、ミスマッチを防ぎたい。

(11) 総括	「1学年地元企業研究会」「2学年インターンシップ3日間」「3学年地元企業求人説明会」及び「地元大学等見学会」等を実施し、県内就職・進学への割合が更に向上した。高校生レストランは好評の中、予定通り8回実施(後半は生徒会館)、運営効率からすると生徒会館を中心に運営したい。学校行事や部活動において一所懸命取り組む様子が見られたが、一部に規範意識の低さを感じる。保護者への情報発信に課題があるため学校HPの他の連絡方法の改善が必要である。
---------	--